

科目名	小児看護援助論Ⅲ				
担当講師名	野辺地 裕子	所属・役職	看護教員	資格・免許	看護師
授業形態	講義・GW・演習	単位数・時間数	1 単位 15 時間	開講年次	2 学年後期
講義の概要	<p>子どもと家族が置かれている環境は多様にあり、その状況を的確に判断し、子どもの健康増進・疾病予防・保育・援助方法について学習する。</p> <p>また、子どもたちには個性があり同じ疾患をもつ子どもであっても、発達段階や環境、経験によってケアも多様である。対象となる子どもと家族を支える看護の思考過程を養うため、看護過程の展開を通し、根拠となる知識を再確認しながら判断する過程を学習する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもの成長・発達を支える健康増進・疾病予防に向けた援助を習得する</li><li>・健康状態と発達段階に合わせた子どもの看護過程を展開できる。</li></ul>				
講義回数	講義内容				
1	1. 子どもの生活の場の広がり 保育所、幼稚園、こども園、子ども食堂、学習の場等			教員	講義
2. 3	2. 年、月齢に合わせた絵本と読み聞かせ				講義・演習
4～8	3. 子どもと家族の看護過程の展開 事例：気管支ぜんそくの患児の看護 低出生体重児の看護 1) 病気や診療・入院が子どもの成長発達に与える影響と子どものストレス対処行動について 2) 基本的生活習慣の確立と生活習慣に生じる問題 3) 治療における意思決定支援 インフォームドアセント プレパレーション（VS 測定、吸入、酸素療法） 4) 親（養育者）ときょうだいへの支援				講義・演習
教科書等	「小児看護学概論 小児臨床看護総論」 医学書院 「小児臨床看護各論」 医学書院 適宜、資料配布				
成績評価方法	出席状況、授業参加状況、課題等により総合的に評価する。				
履修上の留意点	既習の小児看護学をふまえ授業に臨むこと。				
特記事項					